

宮崎県パイロット事業 【着先での待機実態の可視化による拘束時間の削減】

- パイロット事業(実証実験)は、今年度、コンサルタントがJA宮崎経済連等の要望を加味した調査を基に検討し、宮崎から市場に行くトラック運転者の長時間労働等の改善を図るものである。以下のように、①着荷主及び運送事業者の現状の分析、②課題の洗い出し・課題に対する解決手段の検討、③解決手段の実証実験、④検証等を行う。
- この事業で明らかになる課題や解決策は、平成30年度に取りまとめるガイドラインに反映し、横展開することで、トラック業界全体の長時間労働是正につなげる。

現状分析

宮崎から市場に行く事業者と、コンサルタントが連携し、当該集団における運送取引の実態を把握。(打合せや事業場の訪問を複数回実施。)

<参加集団>

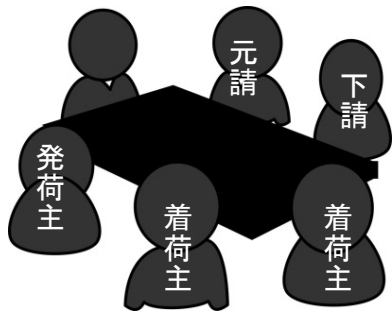
- 発荷主(宮崎県経済農業協同組合連合会)
- 元請運送事業者(JA物流みやざき)
- 下請運送事業者(宮崎配送センターなど)
- 着荷主(卸業者)

※着荷主については非公表

<内容>

- 荷種 青果物
- 発地、着地 宮崎～東京

コンサルタント



課題の洗い出し 解決手段の検討

現状分析を踏まえ、当該集団の課題を設定し、この課題を解決する手段を検討する。

<課題>

- 着先である卸市場構内が混雑して居ることに加え、荷卸しのし易さ等を考慮した構造になっていない
- 待機場所が明確に示されていない
- 荷卸しの方法が事前に示されていない
- 何時に荷卸しできるかわからない
- こうした状況につながっている現場実態が関係者間で可視化、共有されていない

実証実験

設定した課題に対する解決策を実証する。

<実験>

- 実運送を担っているドライバーに対する実態アンケート調査を11月中旬～12月下旬に実施
- ドライバーからの生の声をすくい取ることにより市場内での問題点や待機時間の実態を可視化
- 着荷主と発荷主、運送会社による現状確認と検討会を実施予定。その場でKPI指標の設定、荷卸し箇所数の抑制、複数箇所の一括荷卸し、待機方法の連絡など、今後に向けた方策を検討

結果検証

8～10月

11～1月頃

2月以降

図1 入構時間別にみた荷卸・出構までの所要時間

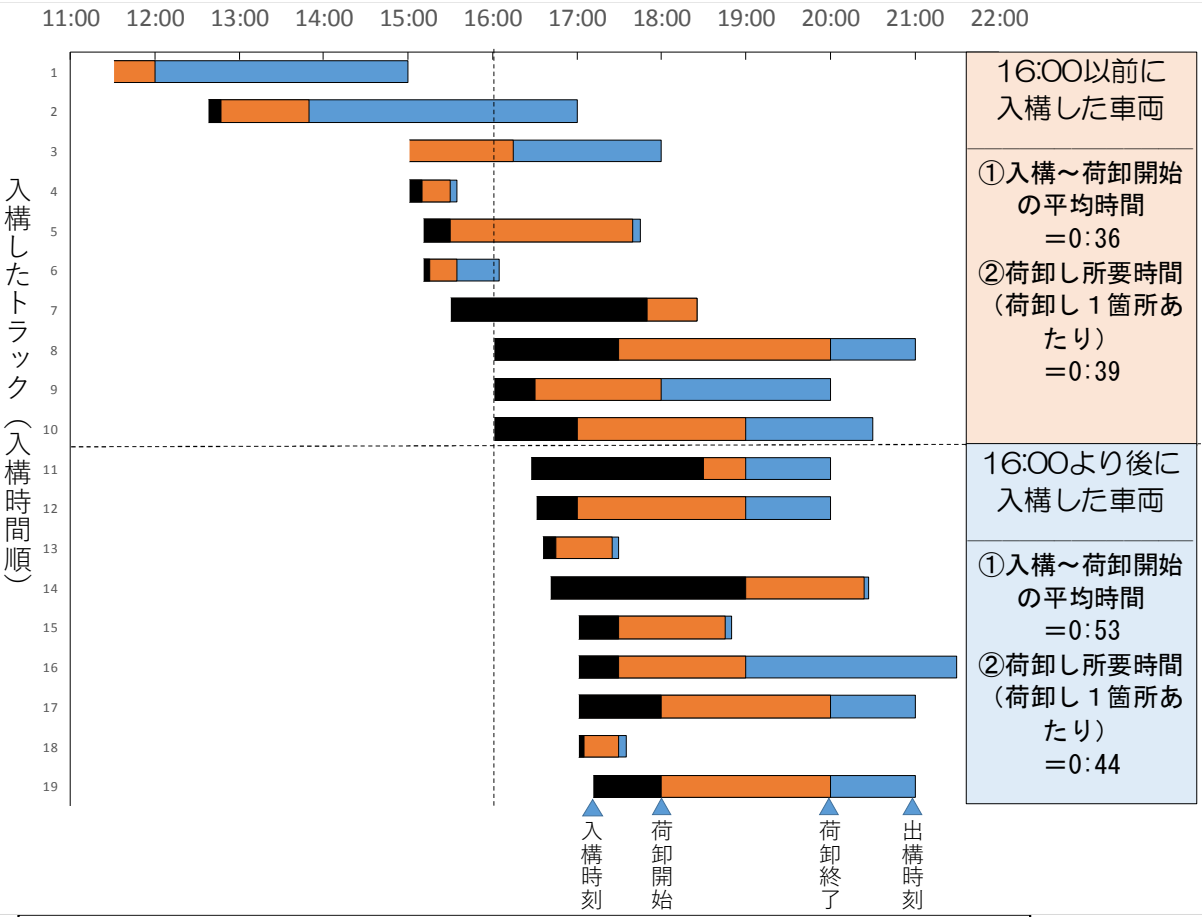


図2 青果物で混雑する市場内(参考)



図3 青果物を納品する車両(参考)

- 着荷主の現場は遅い時間ほど混雑するため、荷卸開始までに待機時間は、時間帯が遅くなるほど長くなる傾向がある(図1)。
- 着荷主の現場では複数箇所での荷卸しを行うが、荷卸し1箇所あたりの荷卸し時間は、時間帯に関わらず長時間を要している(図1)。
- 平均では2.7箇所の荷卸しを行うため、荷卸し開始までの待機よりも、荷卸し自体に要する時間の方が6割ほど長く、平均で73分に達している(図4)。
- 荷卸し1箇所あたりの所要時間は以下の通りであり、これをKPI※として改善を図ることが望まれる。

荷卸し所要時間(荷卸し1箇所あたり) = 41分

※KPIとは、目標達成のために用いる「重要業績評価指標」であり、国交省「物流事業者におけるKPI導入の手引き」等で導入が推進されている。

図4 入構～荷卸開始、荷卸開始～終了の所要時間の分布

